

## サービス産業化、新技術の進展と経済成長、所得格差に関する研究

政策科学研究所 大住 康之



### キーワード

構造変化、収穫逓増、マクロ代替弾力性、資本使用的技術進歩、不平等

### 研究概要

大きく次のような観点から、成長と分配に関する研究を行っています。

1. サービス産業化、特に金融部門や情報産業部門の割合の増大と近年の所得と資産の一極集中化現象に関する研究。特に巨大企業が出現し資産の自己増殖を生み出すような規模の経済が働いているか否か、働いているならばどういった理由からか、また規模の経済が働いているならば成長や分配はどのようになるか。2. オートメーションや人工知能の進展という新技術の労働から資本へ代替作用に関する研究。労働から資本への代替はどれくらいの程度で、またどのような雇用形態にまで影響を及ぼすか、このような代替作用はマクロ的に成長や所得分配に如何なる影響を及ぼすか。3. 同様に、オートメーションや人工知能という新技術の資本使用的性質に関する研究。この新技術が資本使用的な技術的特徴をもつならば、コンピューター化と生産性の停滞というパラドックスはどのように説明され、また所得格差はいかなる影響を被るか。こういったことについて、学外研究者と共同して研究を進めています。

### アピールポイント

近年の巨大投資銀行や巨大企業の出現現象や、日本を含む先進国全体で生じている成長の停滞や所得との不平等化現象に対して、日本経済を中心に成長促進政策、所得格差是正政策、雇用政策等を考察し、提言を行いうる点です。

### 応用分野

コロナ禍というパンデミック下における経済不況、所得分配、賃金、雇用、失業に関する分析。